

米インフレ鈍化で広がる利上げ終了観測

ポイント① 市場予想を下回る米CPI

14日に発表された10月の米CPIは前年同月比3.2%増と市場予想（同3.3%増）を下回ったほか、変動の大きい食品・エネルギーを除いた米コアCPIも同4.0%増と9月から横ばいの市場予想（同4.1%増）に反し、伸びが鈍化しました。項目別の寄与度では、エネルギーのマイナス幅が9月から拡大しました。また、米CPIの25%超を占める帰属家賃の伸びが鈍化するなど、サービスインフレの減速も見受けられました。

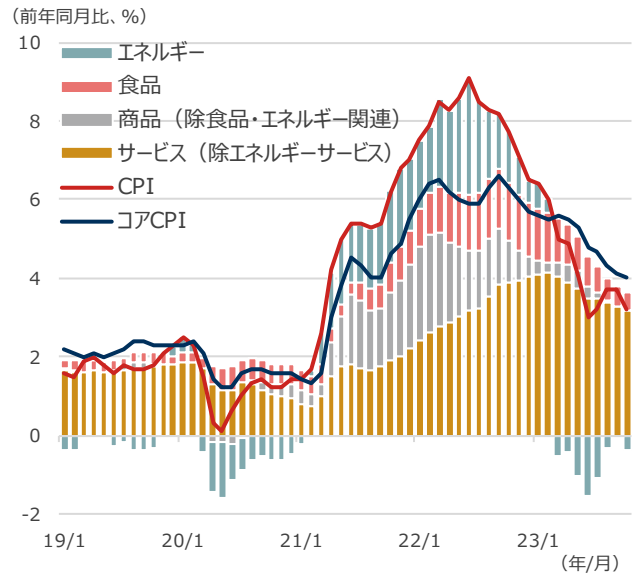
ポイント② 帰属家賃の伸び鈍化が続くか

CPI帰属家賃は住宅価格に1年半ほど遅れて連動する傾向があり、今後も伸びの鈍化が続く可能性があります。22年3月以降、FRB（米連邦準備制度理事会）が急ピッチで政策金利を引き上げてきたことから、足元では米30年物固定住宅ローン金利が7.5%程度と約23年ぶりの高水準で推移しています。これが米住宅販売の逆風となり、住宅価格が上昇しづらい状況となっています。また、米労働需給が緩和しつつあることも賃金の下押し圧力となり、帰属家賃の抑制につながるかもしれません。

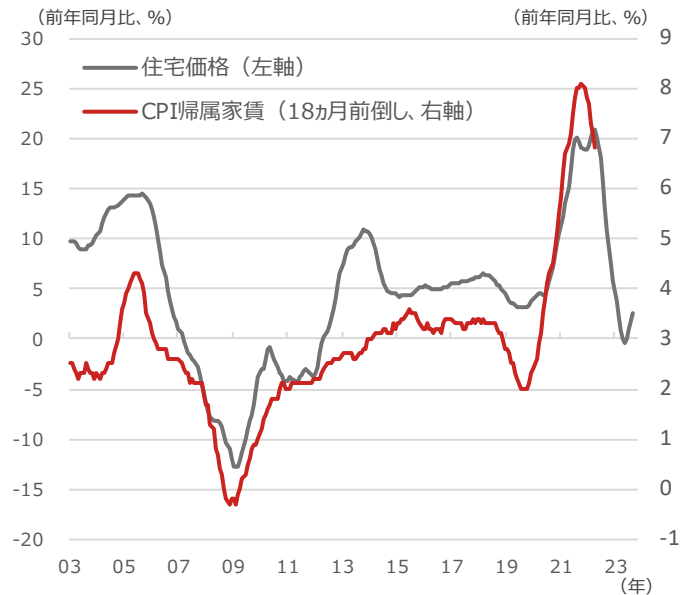
ポイント③ 米利上げ終了観測が広がる

14日は米10年国債利回りが0.19%急低下（価格は上昇）し、S&P500種株価指数が前営業日比1.9%上昇しました。米インフレの鈍化が示され、FRBの利上げが終了したとの見方が広がったようです。市場では米国経済の安定成長とインフレ鈍化の両立が期待されていますが、今後はこれまでのインフレ抑制を重視した態度が軟化し景気への配慮が見え始めるかなど、FRBの金融政策スタンスに注目です。

米CPI（消費者物価指数）の項目別寄与度



米国の住宅価格とCPI帰属家賃の推移



重要 11月15日 米小売売上高（10月）
イベント 11月28日 S&Pコアロジック・ケース・シラー住宅価格指数（9月）